

## ビラーンの村サムラングの簡易クリニックから、モロ民族医療チームの「母子の命を守る」活動に至る医療支援

### 貧困とアクセスの悪さが課題のビラーンの村サムラングから始まった医療支援

辺境の山岳部に居住するビラーン等の先住民族にとって最大の課題の一つが医療サービスの不在でした。貧困以上に大きな障害「医療機関が遠い」に対応して1996年サムラングに設立した簡易クリニックが医療支援の始まりでした。

CMIPの前身CMB(ビラーンカトリックミッション・担当は助産師ジョジョさん)と協働して、必要な場合はジェネラルサントス市内の公立病院での治療や入院につなげるという活動は約15年継続、その後、辺境にもバランガイヘルスワーカーが派遣されるなど公的サービスが拡充されたことで、薬草活用や保険加入研修、簡易水道建設を含む私たちのCMIPと協働の医療支援事業は約10年前に終了しました。

### 厳しい経営ですが、自宅出産の危険を減らす歩みを続けます — モロ民族医療チームPIHSの活動 —

ビラーンの村の活動に続いて、2002年「母と子のコミュニティスクール」支援から始めたモロ民族医療チームPIHSとの協働。その集大成としての助産所の順調な発展を報告してきましたが、昨年11月には、「近隣で助産所の新規開設が続き競争が激化した。引き抜きに応じてパササンバオを去る医療スタッフが出ている」という報告がありました。運転資金に余裕がない中、保険診療分の払い戻し遅延で給与支払も遅くなり、離職選択が増えたようです。

一方朗報もあります。病院実習を終えた臨床検査技師コースのザイラがまもなく助産所スタッフに加わります。「辺境のモロやビラーン民族に多い自宅出産の危険回避」という助産所開設の目的、存在意義は今も重要であり、今後もコミュニティに妊産婦を訪ねて実施する研修や産後ケア、母子の命を守る学習会などを並行して実施することで、辺境、貧困世帯の母子の命を守る砦として、その運営を維持していきたいという決意も伝えられました。

当法人解散予定の本年3月末で、助産所運営などに対するPIHSへの支援は終了しますが、今後も現況把握に努め、可能であれば、任意団体等の形で適宜支えていけたらと思います。



退院を控えた母子でにぎわう助産所待合室

## 約20年間に22地域で実施した「環境保全」活動 小規模アグロフォレストリーの実いと課題



2014年、ILS校のあるティヌオス地区で地球環境基金助成により植栽したアボカドと在来種カヨ・ネフ

輸出用ラワン材などの乱伐で熱帯林が消滅した先住民族の村々。その生態系回復と収入向上に有効な「山腹斜面の土壌流出を抑える傾斜地農法により、熱帯林修復とともに、1-5年で現金収入が入る各種樹木作物を等高線状に植栽する」アグロフォレストリー事業。少数民族里親の会/FOT(2002年に解散)の活動を引き継ぐ中、その現地パートナーで農業専門家からなるPFPと出会い、私たちHANDSも各種助成金を受けて、計22地区でアグロフォレストリーを実施しました。しかし、その生育状況の確認は、ドゥテルテ政権下のミンダナオ全土戒厳令に続くコロナ禍で長期間実施できていません。

一方で、運営面で問題があった現地協力組織PFPは、頼りとしていた財務担当ビビアンさんの急逝(2020年)で、過去の事業地域の現況把握が困難となりました。PFPの活動自体も実質的に停止しました。その中で今回唯一頼りにしたのは、最後の事業地域レイクセブ町辺境で教育支援活動を続けるILSのアニータ先生です。年明け早々に、ILSプロジェクト担当ロバートさんに2013-16年に実施のレイクセブ7地区の事業地域について写真報告をお願いしました。各地区ともバナナをはじめ各種果樹は実りの時期を迎え、急斜面に植えた在来種も数メートルに成長しているのが認められました。

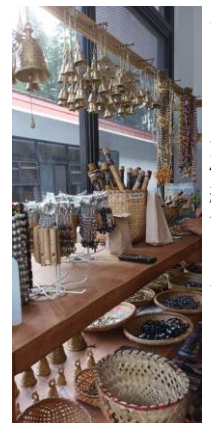
今後現地を訪ねる機会があればレイクセブ以外でも確認したいと思います。

## 組合員主導の販路拡大が課題 — 2年前に支援開始のティヌオス女性組合 —

「真鍮細工も大好評です！」竹細工やビーズ製品などの販売が好調と報告のマリスト修道会黙想の家に併設の「チボリハウス」店舗。各地のミッション校教師や生徒以外にも、企業など職場単位で黙想会に参加する人々でにぎわったクリスマス前には、新規に展示したクリスマスベルのほか民族楽器を演奏する姿や戦士を模した真鍮細工の売れ行きも好調だったようです。

「これでクリスマスと新年を祝えます」という嬉しい報告でしたが、ティヌオス女性組合の場合、アニータ校長が組合から製品を買い取る方式です。母親たちも「これで学用品など買えます」ということですが、実際にどの程度売れて、最終的にいくら学校(アニータ先生)が手にしたかの報告はありません。

2002年から支援開始のCOWHEDに対して、2年前の店舗建設支援からと支援の歴史が浅いティヌオスの組合活動。販路開拓を含めてアニータ先生頼みから脱した活動に発展することを期待しています。



「チボリハウス」ティヌオス女性組合コーナー